

2026年度 入試問題分析シート

東京科学大学

前期日程 医歯学系(医学科)

科目

数学

総括

試験時間	90 分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	120 点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

総論

昨年よりも易化した分、実力差が如実に現れる出題となった。このため、数学が得意な学生には有利に、不得意な学生には不利に働いたと思われる。

特記事項・トピックス

昨年は出題のなかった証明問題が出題された(第1問(3))。
空間座標と微積分の融合問題が2題出題された(第1問、第3問)。
場合の数・確率の問題が2年連続で出題された。

合格への学習対策

融合問題・総合問題が多く、出題分野が広範囲であるので、何が出題されてもよいように、弱点を作らない学習が重要である。大問は必ずいくつかの小問に分かれて出題され、ほとんどの問題がいわゆる「誘導形式」であるから、小問のつながりをしっかり頭に入れて解いていくことが大切である。

国公立大学医学部としては珍しく、証明問題が少ないことが本大学の特徴であるが、だからといって論証が不要なわけではないし、今年のように証明問題が出題される年もあるので、論証力も鍛えておく必要がある。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1	記述	II, C	空間座標 関数の最大と最小	直方体および四角錐台の体積の最大値について考察する問題である。体積を表すときに線分の長さを表すところでは、三角比の利用、相似の利用、方程式の利用などいろいろな方法が考えられる。	標準
2	記述	A	場合の数	条件を満たす数列の個数を求める問題である。(2)によって(3)の方針が立つ上に、本大学の志望者であれば類題の経験があるはずの内容であるから、確実に得点したい問題である。	やや易
3	記述	II, III, C	図形と方程式 空間座標 体積 関数の最大と最小	空間内の2つの円板の共通部分が通過する部分の体積を求め、それが最大になる場合を求める問題である。(3)で(1)、(2)を利用して体積 V を立式し、積分変数が θ になるように置換積分するところまでは難しくない。ただし、そのあとの積分計算を素直に行うと膨大な計算量になるため、(2)の経過に注目して置換積分し、計算量を減らすことがポイントである。	やや難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。